



ものづくりの可能性を信じて、道を切り開く

発信!
いわての
力こぶ

誘致企業として昭和50年に一関市千厩町で創業し、平成14年にMBOにより親会社から独立した株式会社千厩マランツ。工場閉鎖の危機を乗り越え生産環境の向上につとめ、既存事業の枠を越えた新分野へのチャレンジも順調だ。日本のお家芸ともいわれた製造業界に吹き荒れる嵐に耐え、ものづくり環境を守る方策は何か。及川宏社長が語った。

MBOにて大手メーカーから独立親会社に頼らず生産力を高度化

「国内生産のメリットは少量多品種。従来同様コンシューマーを追いかける事業では、もう海外との競争には勝てません」。

株式会社千厩マランツ代表取締役社長の及川宏さんの方針は、同社の生産アイテムを見るだけでわかる。各種産業機器をはじめハンディターミナル、アミューズメント関連機器、防災ラジオや船舶無線…。専門的かつ特殊な製造分野への展開はOEM生産で培った生産力と基板実装のミニチュアライゼーション技術があるからだが、このような体制確立の背景には、親会社による生産拠点再編という会社存続の危機があった。

昭和50年、同社は日本マランツ(当時)の地方工場として設立された。マランツといえば世界的なオーディオメーカー。同社もアンプやテーブデッキ等を生産していたが、設立5年目頃からは通信機器生産へ移行し、同時にOEM生産にも着手。工場再編が始まった平成8年頃には親会社からの受注はほとんどなくなっており、ついに平成14年、親会社からのMBOという形で新生・千厩マランツが誕生したのである。「工場閉鎖か独立か。二者択一という決断の中、全ての事業と従業員およびインフラを引き継ぎ、『私たちの会社』という強い気持ちを持ってスタートしました」と及川社長はいう。ものづくりの技と誇りを絶やすな。及川社長と関係者の熱意が道を拓いたのである。

エレクトロニクスを事業の柱に新ビジネス・アグリ産業に参入

現在の主要製造形態は、完成品生産・SMD(プリント基板表面実装部品)生産・顧客サービス・人材派遣業の4カテゴリ。完成品部門の主流である業務用通信機器は平成28年の完全デジタル化に向けて着実な受注が見込まれ、SMD生産では高度で特殊な品質が求められるためアジア圏の参入が難しいアミューズメント機器を引き受ける。顧客サービスでも近郊の電子業界のEMSにも対応し、同社の従業員を県外大手製造メーカーへ派遣する特定人材派遣も順調だ。

だが及川社長は持ち前の開拓精神で、新たなビジネスを見出した。受注環境の変化を受けて平成22年に移転した現工場で、翌年からスタートさせた菌床椎茸の栽培と販売である。アグリ分野への参入は「遊休スペースの活用と1年を通じ生産可能な

点、そして設備投資額が少なく済むことから」と及川社長。栽培地研修などでノウハウを学び、さらに国際品質規格のISO9001認証取得で培った品質管理や栽培室にマランツのオーディオシステムによるクラシック音楽を流すなど、電子メーカーならではの付加価値を追加。その名も「クラシックいたけ」は、地元はもちろん今や東京市場にも直接出荷、高い評価を受けている。

新会社設立から10年余り。業界の環境は一層厳しさを増しているが、及川社長は当センター主催の商談会をはじめ受発注会議等へも参加、次の挑戦向け準備を重ねる。「将来的には材料調達から対応できる体制をとり、メーカーは注文書1枚で発注が済むようにして受注の確保に繋げたい。既に当社のグループ会社であるマランツエレクトロニクスを中心に、資金を含めグループ調達に向けた組織作りを始めています」。切り拓くべき道は長く、未来へと続く。

業種や業態にこだわらないものづくりが強み

新たに立ち上げた新規事業推進部は菌床椎茸の栽培ほか、平成24年度に一関市の全戸配布に対応した防災ラジオを納入、以降はラジオサポートセンター事業を受託しています。今後も業種や業態にこだわらず柔軟な生産体制で臨んでいきます。

代表取締役社長
及川宏



会社名 株式会社千厩マランツ
社 一関市千厩町千厩字下駒場254
本 0191-53-2321(代)
電 及川 宏
代 昭和50年(1975)10月
表 143名
創 業 種 オーディオ、通信機器の製造・
業 員 しいたけの生産、加工、販売
種 U R L http://www.senmaya-
marantz.co.jp/

【支援企業紹介】一関市
株式会社千厩マランツ

